２０２６年１１月１８日（水）　聖書研究祈祷会
タイトル：『一匹の羊と羊飼い』
聖書：ルカ 15 章 1〜7
賛美：新聖歌 206 番

今日は『一匹の羊と羊飼い』というタイトルをつけさせていただきました。
これは 100 匹の羊を飼っていた羊飼いが、囲いの外へ迷い出た１匹の羊を必死に探し回る物語です。

今年の 5 月に『イースターの奇蹟』という出来事がありました。イラクで撃ち落とされたアメリカ軍のパイロットがイラク領内からアメリカ軍の捜索で見つかり救われたという出来事です。
救われたパイロットは敬虔なクリスチャンだったようです。
この救出劇をトランプ大統領は『イースターの奇蹟』と名づけました。

私は仕事柄いろんな高齢者から話を聞くことがあります。
この方（T さん）は１０１才まで生き抜かれ、枯れるように眠られましたが、最後まで古武士然としておられました。
第二次世界大戦の時です。T さんは小笠原の軍隊におられました。激戦だったようですが、T さんの属する部隊であったかどうかはわかりませんが、アメリカの雷撃機を打ち落としました。すると空からと海から危険を侵して、そのパイロットを救うためにアメリカ軍がやってきました。
結局、このパイロットは 4 時間海を漂流して、潜水艦に救われました。この時 T さんはアメリカ軍の行動をみて「すごい国だ」と思ったそうです。
結局この救出劇で助けられたのはブッシュ（父）だったようです。この事は T さんも後で知られたようですが、調べますと確かに 1944 年 9 月 2 日にブッシュが九死に一生を得たことが記されています。この奇蹟がなければ親子２代の大統領は生まれなかったわけです。
T さんはクリスチャンではありませんでしたが、同志社英学校を出ておられましたので聖書は読んでおられたと思います。この話を聞いて軍の中にも“一匹の羊”の精神は生きておったのかと思わされました。

聖書に戻ります。
イエス様が、この物語（たとえ話）を話されたシーンを見ておきます。
**ルカ 15：1〜2**『さて、取税人たちや罪人たちがみな、話を聞こうとしてイエスの近くにやって来た。すると、パリサイ人たち、律法学者たちが、「この人は罪人たちを受け入れて、一緒に食事をしている」と文句を言った。
それに対して、イエス様は、
**ルカ 15：4**『あなたがたのうちだれかが羊を百匹持っていて、そのうちの一匹をなくしたら、その人は九十九匹を野に残して、いなくなった一匹を見つけるまで捜し歩かないでしょうか。』とパリサイ人や律法学者に問うておられます。

今イエス様と食事している取税人や罪人はイスラエル社会からはじき出された人たちです。
シナゴーグというユダヤ教徒の礼拝所にも入れてもらえなかったし、当然献金も受け取ってもらえない、ユダヤ社会から疎外された人たちです。

イエス様にとっては、九十九匹の救われた羊も大切ですが、野に置き去りにすることは、狼に襲われる危険もあるわけです。谷や山を羊の名前を呼びながら探し回るわけですから羊飼いにも、死の危険が伴うわけです。

ここで羊飼いについて、聖書から見ておきたいと思います。
**ヨハネ 10：11〜13**『わたしは良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。
牧者でない雇い人は、羊たちが自分のものでないので、狼が来るのを見ると、置き去りにして逃げてしまいます。それで、狼は羊たちを奪ったり散らしたりします。彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからです。

**ヨハネ 10：16**『わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊たちがいます。それらも、わたしは導かなければなりません。その羊たちは**わたしの声に従います。**
**ヨハネ 10：3**『牧者は自分の羊たちを、**それぞれの名を呼んで連れ出します。**
とありますから、羊飼いは**名前**を呼んで、羊も羊飼いの**声**を聞き分けるのです。

**ルカ 15：5〜6**『見つけたら、喜んで羊を肩に担ぎ、家に戻って、友だちや近所の人たちを呼び集め、「一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから」というでしょう。

杉山兄が来年神学校に入学志願をされました。先日も役員会で証をお聞きしました。その中で「しばし教会を離れていた時期もあった」と証をされていました。
本格的に教会に戻って来られたのは、コロナ禍の前後ではなかったかと思います。お母様の杉山タミ姉が「信良が帰って来ました」と言って、喜ばれていたことを思い出します。
彼がまだ１７歳で学生服の時に、私は東京から戻り、３２ 歳で「遅れて来た青年」として、当時１５名前後の青年会に加わりました。
久しぶりに柏原教会の門をたたいた時、受付で梅原千鶴子先生が「帰って来られたのですね。親孝行ですね。」と言って“迷える羊”を温かく迎えて下さいました。
あれから４４年です。

杉山兄も、関西聖書神学校の信徒奉仕者研修を終え、さらに勧士の学びを終え、役員も 4 年間務められ、塾経営も 40 年以上続けられてきました。お父様の杉山武雄兄は生前「お前は 60 歳からや」と言われていたそうです。いよいよその時が来たのだと思います。
彼の献身に導かれた御言葉のひとつに
**ヨハネ 21：16**『わたしの羊を牧しなさい』だと聞きました。

私たち“迷える羊”も一方的な憐れみによって、見つけ出され、引き上げられました。
教会の外には、”迷える羊“がいっぱいです。家族・親戚、友人・知人も地域の方々も、学校や会社など、縁ある多くの”迷える羊“がおられます。
私たちも今日も遣わされるところにあって、“迷える一匹の羊”のために、祈り、大牧者のもとにお連れする行動を起こしてまいりましょう。